

このことより、中性形質は劣性ホモとして発現し、長日性系統の自家受精により純系の長日性系統が得られる可能性を示唆している。そのため、現在、純系の長日性系統を得る努力を続けている。

日本各地には、G3系統に由来すると考えられるイボウキクサが分布しており、これらは栄養繁殖をしていると考えられる(角野・平啓 1994)。しかし一方ではこれらの開花現象も観察されており、結実も認められている。本報告は、G3系統に由来するイボウキクサが種子

繁殖すれば、かなりの確率で、中性系統が分布するはずであることを示唆している。それゆえ、分布しているイボウキクサの日長性を調べることにより、自然条件下での繁殖様式や、生育特性を知る手がかりとなるはずである。

参考文献

角野康郎・平啓雅子, 1994. 日本のイボウキクサ. 植物分類地理: 75-76.

○文献リスト<1997-(3)>

上野雄規, 1997. 東北におけるフサタヌキモの現状と保全. 植物地理・分類研究 45: 53-64.  
 岡島一允, 1997. 服部緑地にオニバスが発生する. 近畿植物同好会会報 (72): 10-11.  
 沖田貞敏, 1997. 太田町横沢公園の自然について. 秋田自然史研究 (34): 22-24.  
 角野康郎, 1997. 中池見湿地の水生植物の保全. 関西自然保護機構会報 19: 103-108.  
 河野昭一, 1997. 中池見湿地(福井県)の保全—大阪ガスLNG備蓄基地建設をめぐる問題点. 環境と公害 26(3): 65-67. [関西自然保護機構会報 19: 97-102に写真を加えて再録]  
 河野 勝・日置佳之・田中 隆・長田光世・須田真一・太田望洋, 1997. 都市公園における水草豊かな池沼づくりのための基礎調査. 環境システム研究 25: 59-66.  
 杉山恵一, 1997. 中池見の現状とその保全対策について. 関西自然保護機構会報 19: 81-87.  
 瀬戸賢一, 1997. 戸隠・飯綱高原の低層湿原植生. 植物地理・分類研究 45: 93-102.  
 田中 肇, 1997. ミズバショウの種子散布. 植研雑 72: 357.  
 永吉照人, 1997. 植物たちの危機 6. オニバス. 趣味の山野草 18(7月号): 26-27.  
 松尾光弘・芝山秀次郎, 1997. 侵入から約20年を経過した1995年の岡山県南部の水田におけるアメリカコナギの分布. 雑草研究 42: 221-226.  
 松尾光弘・芝山秀次郎, 1997. コナギ幼植物における胚軸毛の形成様相. 雑草研究 42: 233-239.  
 南谷忠志・赤木 康, 1997. 国指定天然記念物「川南湿

原植物群落」の植物調査結果. 宮崎県植物研究会会誌 (8): 46-68.

村田 源, 1997. 近畿地方から絶滅した植物 3. 関西自然保護機構会報 19: 135-136. [ムジナモ]  
 森本幸裕, 1997. 造園学からみた中池見の保全と維持管理. 関西自然保護機構会報 19: 89-96.  
 汪 光熙, 1997. 絶滅危惧植物ミズアオイの最後の抵抗—SU剤抵抗性生物型の出現およびその繁殖特性について. 種生物学研究 21: 49-59.

Kawaguchi, S., Y. Takeuchi, M. Ogasawara, K. Yoneyama and M. Konnai, 1997. Allelopathic potential of rice seed (*Oryza sativa* L.) on seed germination of *Monochoria vaginalis* var. *plantaginea*. J. Weed Sci. Tech. 42: 262-267.  
 Fukuhara, H., T. Tanaka and M. Izumi, 1997. Growth and turion formation of *Ceratophyllum demersum* in a shallow lake in Japan. Jpn. J. Limnol. 58: 335-347.

水草研究会第20回全国集会

日程: 1998年8月8~9日

場所: 北海道厚岸郡浜中町霧多布

前日(7日)には、浜中町主催で湿地関連のシンポジウムも予定されています。遠方ではありますが、ふるってご参加下さい。

詳しくは、別便でお送りする案内をご参照下さい。

## 水草研究会会報投稿規定

1. 投稿は本会会員に限る。但し、本会が依頼した場合はこの限りではない。
  2. 原稿内容は、水草\*に関する調査、研究報告、解説（総説）、短報、諸資料、諸情報、エッセイ、他とする。なお原稿の内容に疑義のある場合は、書き直しを求めることがある。
  3. 原稿作成にあたっては、以下の諸点に留意する。
    - A. 原稿は横書き原稿用紙に楷書するか、ワープロ（和文タイプ）を用いる。
    - B. 原著に相当する報文には著者名及びタイトルの英語を併記すること。また、著者が必要と認めた場合は、英文摘要（Abstract）をつけることができる。
    - C. 図は活字の貼り込みをのぞき、そのまま製版できるように仕上げる。図（写真含む）の右上または裏面に、図の番号と著者名を書き、説明は別紙に一括する。表は別紙に書く。表の説明は各表の上側につけ、必要に応じ、下に注をつける。
    - D. 文献の引用は、文献番号ではなく、著者名と年号を明記する。  
（例）『三木（1937）は、…』『…である（三木、1937）』。また、文末の引用文献は、最近号の例にならって、著者の姓名のアルファベット順に配列する。
  4. 掲載の順序と体裁、並びに校正は編集担当者に一任のこと。なお、特に希望する点があれば申し出る。
  5. 別刷を必要とする場合は、投稿時に必要部数を申し込むこと（50部以上、50部単位）。費用は著者負担とする。
  6. 送稿や編集に関する通信は、〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1 神戸大学理学部生物学教室 角野康郎宛とする。
- \*ここで言う水草は狭義の水草に限定せず、広く湿地や水辺の植物なども含むものとする。

### 〔編集後記〕

冬の間に発行を予定していた号ですが、またまた遅れてしまいました。満開の桜を窓の外に見ながらこの後記を書いています。1998年の日付になっていますが、これが1997年度の最終号です。

さて、今回も貴重な調査報告をお寄せいただきありがとうございました。編集のやりがいがありました。今年はまだ少したくさんの原稿が集まって予定通りに編集できることを期待しています。昨年は、水草のおかれている状況がますます悪化していることには変わりはないものの、新しい発見や保全の取り組みの新展開などがいくつもありました。本誌で紹介した鷺谷さんの著書でも述べられていることですが、生物多様性の保全のためには「管理」が、この言葉が嫌なら「手助け」でも「仕掛け」でも何でも構いませんが、人の積極的なかわりが必要だということが共通の認識になってきたように思えます。ではどうするのか？ 水草の場合はとりわけ調査研究を急がなければなりません。この会報に寄せられるさまざまな調査報告が重要な積み重ねになります。誌上で保全に関する議論を盛り上げませんか？

（角野）

水草研究会会報 63号

1998年2月20日印刷

1998年2月20日発行

発行 水草研究会

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学理学部 生物学教室内

TEL (078) 803-0559

FAX (078) 803-0559

印刷 中村印刷株式会社

〒657-0035 神戸市灘区友田町3-2-3